

《マアジの旬について》

昨年度より漁獲物の付加価値向上を目的として、まき網漁業で漁獲されるマアジの「旬」の解明について研究を進めてきました。その結果、産地や魚体の大きさによる「旬」の違いが明らかとなりましたので報告します。

調査は平成 11 年 4 ~ 12 月に浜田、恵曇、境港の 3 港でまき網漁船が水揚げしたマアジを対象に行いました。「旬」の指標としては、可食部の脂質含量を使用しました。分析に用いたマアジの大きさはまき網漁業で多く漁獲され、主に加工用原魚(「アジの開き」の原魚)として産業的に重要である 80~100g サイズに重点をおきました。

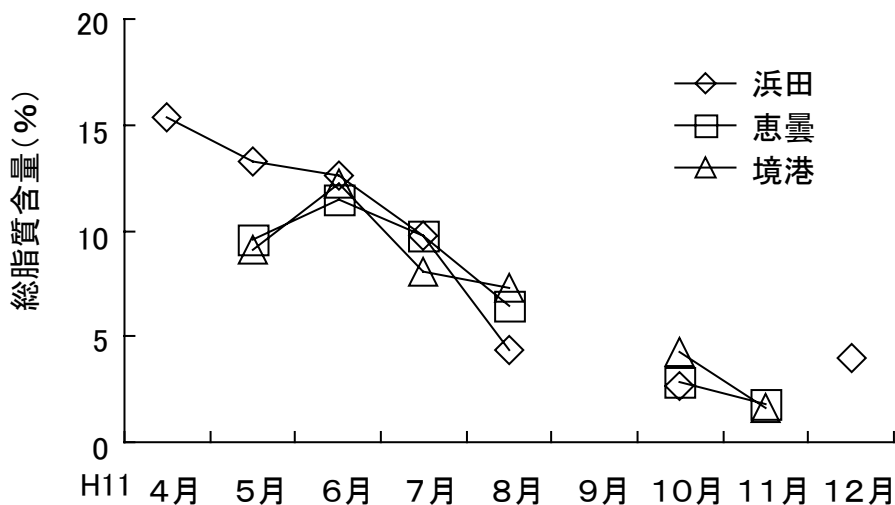


図1. マアジ(体重80~100g)総脂質含量の季節変動

調査結果を図 1 に示しました。図 1 から脂質含量が最も高い月、すなわち加工用サイズのマアジの「旬」は、浜田では 4 月、恵曇、境港では 6 月であることがわかります。脂質含量は、7 月以降は 3 地区ともほとんど差がなく減少しています。また、脂質含量自体も 4 月浜田の 15.4% から 11 月境港の 1.6% まで大きな季節変化を示しています。

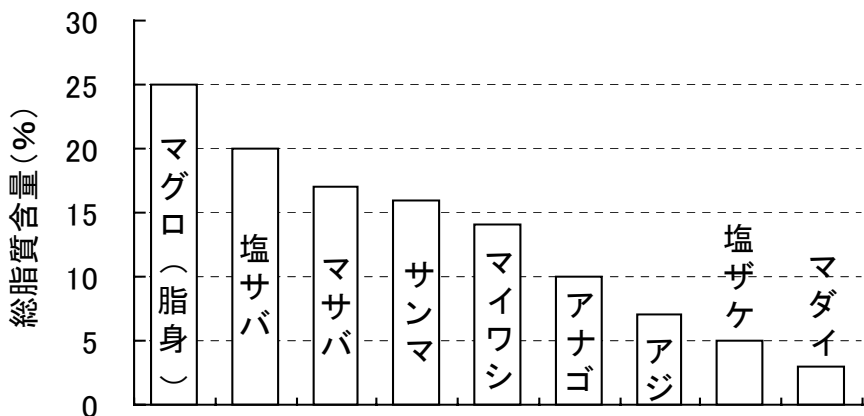


図2. 他種の脂質含量 (%)

(注:データは四訂食品成分表より引用した)

脂質含量が高いということは「脂が乗っている」ということを意味していますが、今回明らかとなったマアジの脂質含量は、他の魚と比べるとどうでしょうか？ 比較のために一般的に知られている他種の脂質含量を図 2 に示しました。あまり口にする機会はありませんがクロマグロ（脂身「トロ」）は約 25%もの脂質を含んでいます。また身近にあって脂の最もよい魚は塩サバではないでしょうか。この脂質含量はクロマグロ（脂身）に次いで非常に高く、人によっては脂がきつすぎると感じるかもしれません。次に脂の乗って美味しい大衆魚として知られるマサバ、サンマ、マイワシなどでは 10%台中頃の水準となっています。ちなみにマアジは青魚の中ではわりとさっぱりした魚のイメージが強いようですが、今回の結果から、春先～夏前に獲れるものはサンマやマイワシと同等に脂が乗っていることがわかりました。

今回の調査は主に加工用原魚サイズを中心に行いましたが、それ以外のサイズについても多少調べてみました。その結果、80～160gのサイズにおいては、大型の個体ほど脂質含量も高くなる傾向にあり、特に脂質含量水準の高い 7 月まではその傾向が顕著でした。浜田港で 6 月に調査した結果では、体重 120g の個体の脂質含量が 14.2%だったのに対し、これよりわずか 20g 重い 140g の個体の脂質含量はなんと 18.1%もありました。図 1 には加工用サイズの脂質含量しか示していませんが、これよりサイズが大きくなれば少なくとも同時期の加工用サイズ以上の脂質含量であることが予測されます。

表 1. 全国のブランドアジ

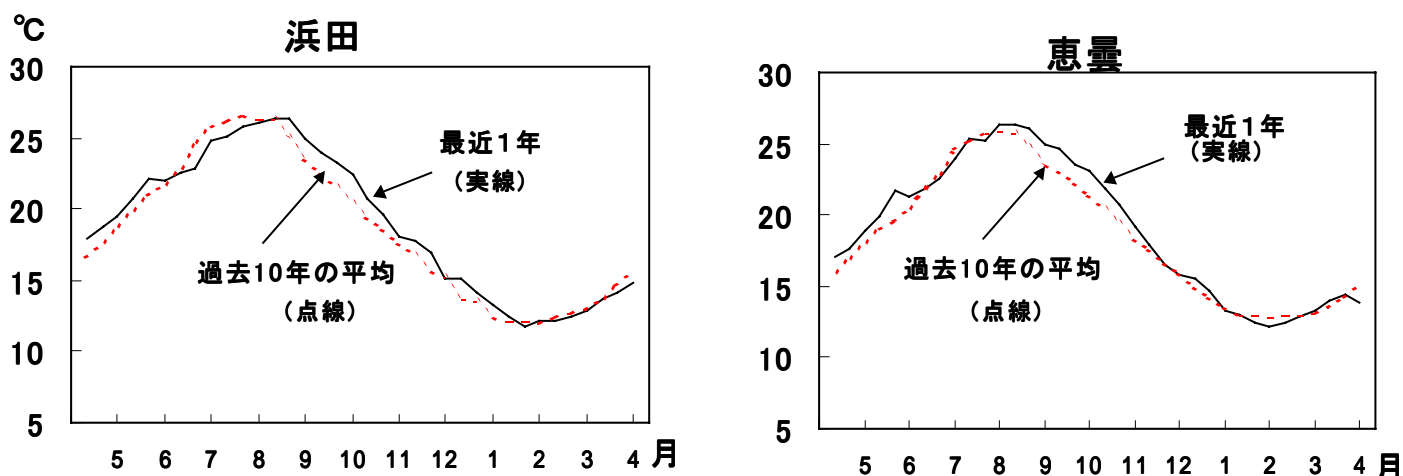
都道府県	ブランド名	販売者	漁業種類	特徴
和歌山県	由良アジ	由良、大引漁協		
山口県	萩の瀬付きアジ	山口県漁連	巻網	日本海側の瀬付きアジ。脂がのってふっくらしている。
愛媛県	岬(はな)アジ	三崎漁協	一本釣	豊予水道で獲り、三崎で水揚げされたアジ。
長崎県	ごんあじ	(有) 柏木水産	巻網	250g以上で一時蓄養後、出荷前に \times 、血抜き処理。
"	旬(とき)アジ	日本遠洋旋網漁協	巻網	五島、対馬海域で獲れたもの。
"	五月アジ	(株)ウエハラ	巻網	対馬北東沖で獲れたものの主に開き干し。
佐賀県	玄アジ	(株)シーボーン昭徳	巻網	玄海灘で獲り、蓄養後、出荷前に \times 、血抜き処理。
大分県	鶴見アジ	鶴見町漁協	巻網	豊後水道で獲れたアジ。
"	関アジ	佐賀関町漁協	一本釣	元祖ブランドアジ。身は締まり、体色は黄金色。
鹿児島県	キシラシロアジ	内之浦町岸良地域	一本釣	
"	長島海峡アジ	長島町漁協	巻網	長島海峡で獲り、一時蓄養後、冷海水で生きしめ処理。

最後にブランド化について一言触れたいと思います。表 1 に全国のブランド名のついたマアジについて紹介しました。かつてブランドアジと言えば「関アジ」に代表される一本釣のものが中心でしたが、最近では「ごんあじ」をはじめとした巻網物のアジもブランド化が進んできています。まき網ブランドも漁獲後生かして持ち帰り一時蓄養したものを出荷前に活 \times 、血抜き等をした手の込んだ高級品から、旬アジ、五月アジのように時期と漁場を限定しただけの比較的手軽なブランドまで様々です。このように全国各地でブランド名をつけ、他産地との差別化を図り付加価値をつける取組みが行われている中、残念ながら島根県のアジにはまだ名前すらついてないようです。さらに、この秋から生鮮魚介類に産地名が表示されること（JAS 法改正による）になりますと産地の知名度やブランド名によって購買意欲が左右されることが予想されます。そのためにも一刻も早く産地の PR、魚のブランド化が望まれます。島根のアジもなにかよいネーミングを考えてみてはいかがでしょうか。

1 年間調査してきたわけですが、環境条件等の年変動による「旬」の変化や脂質含量水準の変化が考えられます。そのため引き続き今年度も調査を継続していきます。本年度は昨年度の調査に加え、身の中の脂の偏在（皮下に多かったり、身の中まで脂がまわっていたりといったこと）を明らかにしていこうと考えてます。

試料魚の入手につきましては漁業者の方々、漁連、漁協の担当職員等に多くの協力を頂いています。今後も引き続き、皆様のご協力を宜しくお願いいたします。（利用化学科 開内研究員）

《 4月の海況 》



4月	月平均	平年差	評価
浜田	14.2	-0.3	やや低め
恵曇	14.1	-0.7	かなり低め

4月の月平均水温は3月に比べ浜田で1.8、恵曇で1.6上昇しました。浜田では平年に比べ「やや低め」、恵曇では「かなり低め」の水温経過となりました。

した。

《 4月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は1,217トンで、前年の163%、平年の29%と、平年を下回ったものの不漁であった前年は上回りました。水揚金額は1億300万円（前年比：83%）でこちらはマアジの単価が落ち込んだため、前年をやや下回りました。漁獲の主体はマイワシ、マサバ、マアジでした。

また、恵曇ではマイワシ・カタクチイワシを主体に327トン（前年比：34%）の漁獲があり、水揚金額は1,751万円（前年比：28%）と極めて低調に推移しました。浦郷でもカタクチイワシ・マアジ主体に1,450トン（前年比：59%）の漁獲があり、水揚金額は8,627万円（前年比：48%）と低調に推移しました。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船（5トン以上）によるイカ類の漁獲量は、スルメイカを中心に97.3トン（前年比：178%）と好調に推移しました。スルメイカの魚体は、20入り及び25入り（外套長20～24cm）が主体でした。一方、西郷のイカ釣り船（5トン以上）では、スルメイカを中心に97.5トンの漁獲（前年比：53%）で、低調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は282トン、水揚金額は1億4,349万円でした。また1統当たり漁獲量は47トン、水揚金額は2,392万円で、量は前年の92%、金額は前年の94%と前年をわずかに下回りました。魚種別にみると、ヤナギムシガレイ、アナゴ、アカムツ（メッキン）が好調に推移し、前年の1.8～2.1倍の漁獲がありました。

恵曇港の総漁獲量は121トン（平年比：12%減）、水揚金額は6,443万円（平年比：17%減）で、量・金額とも平年を下回っています。魚種別に見ると、アカムツ、ヤナギムシガレイ、ソウハチは前年の2.9

～8.7倍の漁獲がありました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協および大田市漁協ではソウハチ主体の漁となっています。1航海当たり漁獲量は前年に比べ約25%減少し、1航海当たり水揚金額は和江漁協で30.9万円、大田市漁協では27.5万円であり、こちらも前年を約10%下回りました。主体であるソウハチは前年に比べ、量的に7割程度、金額で9割程度に留まっています。また大田市漁協では前年まとまった漁獲のあったハタハタが大幅に減少(85%減)しました。その他、アカムツが両漁協で前年に比べ50～35倍の漁獲がありますが、小型魚主体のため1kg当たりの価格は300円前後で推移し、水揚金額は伸び悩んでいます。

【定置網漁業】

隠岐地区では2月、3月と続いたスルメイカのまとまった漁が終了し、マダイやブリを主体とした漁に切り替わりました。特に、マダイは、昨年ならびに一昨年同月の2倍以上の好漁となっています。県東部ではマアジが漁獲の大半を占め、前月比較的好調であったヤリイカはほとんど漁獲されていません。県西部でもマアジ主体の漁となっており、先月、好調であったブリは漁獲は続いているものの、前年同月の半分程度にとどまっています。

【釣・縄】

ブリの漁獲量が各地とも急増しています。浜田では前月の6.7倍、五十猛では11.6倍に達しています。このほか、マダイやメバル・カサゴ類も前月同様に漁獲されていますが、量的には伸び悩んでいます。全体的には、ブリの漁獲増により、量・金額ともに前月の2～3倍に増加して、ほぼ昨年同期並みの漁模様となっています。

漁獲統計

平成12年4月1日～30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	54	マイワシ・マサバ・マアジ	22.5ト	1,217ト
	恵曇	27	マイワシ・カタクチイワシ	12.1ト	327ト
	浦郷	57	カタクチイワシ・マアジ	25.4ト	1,450ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	267	スルメイカ	364Kg	97.3ト
	西郷	486	スルメイカ	200Kg	97.5ト
沖合底びき網	浜田	26	スルメイカ・ムシガレイ・アナゴ	10.8ト	281.8ト
	恵曇	33	ソウハチ・ケンサキイカ・アカガレイ	3.7ト	121.5ト
小型底びき網	和江	472	ソウハチ	758kg	358.0ト
	大田市	224	ソウハチ・ニギス	604kg	135.4ト
定置網	浜田	55	マアジ・ブリ	325kg	17.9ト
	恵曇	42	マアジ	102kg	4.3ト
	浦郷	25	マダイ・ブリ・カワハギ類	777kg	19.4ト
釣・縄	浜田	1,294	ブリ類・スルメイカ・マダイ	24kg	31.3ト
	五十猛	598	ブリ類・メバル・カサゴ	22kg	13.4ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

先月号までイカ釣り漁業に関しては、「沖合い」、「沿岸」といった区分でしたが、今月からは「5トン以上の船」という集計方法に替えています。